



豊かな子

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



6年生を送る会、そして卒業の日へ

2月25日（水）、6年生を送る会を実施しました。企画委員会の5年生を中心として、1年生から5年生まで役割を分担して、思い出に残る会にしようとがんばりました。



6年生から在校生に対してメッセージがありました。

- ・ふわふわ言葉を広げてほしい。
- ・無言掃除を徹底してほしい。
- ・元気なあいさつをしてほしい。

6年生の思いをしっかり受け止め、引き継いでいきたいと思います。



6年生は、小学校生活のまとめ、感謝の気持ちで大掃除、卒業式練習、そして思い出作りに大忙しの毎日です。来週は、いよいよ卒業式！



5・6年模擬選挙



主権者教育として、5、6年生が模擬選挙を経験しました。総合の時間に考えあげた「未来の諫早」について、5名が意見主張を行い、清き一票の投票を呼びかけました。本物の投票用紙、投票箱、記載台等に、真剣な表情で投票している5、6年生の姿がありました。

ことばの教室修了式・発表会

3月3日、本校体育館にて、ことばの教室修了式及び学習発表会を開催しました。これまで積み重ねてきた練習の成果を、みんな立派に発表できていました。今日の発表を自信にして、更に練習を重ね、自らの言葉の力を高めていってくださいね。



叱る と 怒る

私たちは子どもを指導するとき、よく「怒る」と「叱る」という言葉を使います。しかし、この二つは同じようでも大きな違いがあります。

「怒る」とは、(感情)をぶつけることです。その場の(いらだち)や(腹立ち)が中心になり、つい強い言葉になってしまいます。すると子どもには、「自分はダメなんだ」という(自己否定)や、「怖いからやめよう」という(恐怖)の気持ちが残りやすくなります。



一方で「叱る」とは、子どもの(成長)を願って、(行動)を正すことです。大切にしているのは感情ではなく(理由)です。人格を責めるのではなく、その時の(行動)に焦点を当てます。そして最後は、「あなたの味方だよ」という(安心感)で関係を結び直します。

つまり、「怒る」は(感情中心)、「叱る」は(成長中心)です。

子どもに本当に必要なのは、「怖いからやめる」のではなく、「わかったからやめる」という理解です。そのためには、

- ・なぜいけないのかという(理由)を伝えること
- ・次にどうすればよいかという(具体的な方法)を示すこと
- ・叱った後も変わらず大切に思っているという(メッセージ)を届けること

が大切です。

叱ることは決して悪いことではありません。むしろ、子どもを大切に思うからこそ必要な(愛情ある働きかけ)です。一度立ち止まり、「今、自分は(感情)で怒っていないか」「子どもの(成長)を願って叱れているか」と問いかけることが、よりよい関わりにつながっていきます。

子どもは、「自分を(否定)されたのか」、それとも「行動を(直せばよい)のか」を敏感に感じ取っています。私たち大人の関わり方が、子どもの心の育ちを大きく左右しているのです。

◆卒業式で歌う歌◆

卒業の日よおめでとう

力を合わせた思い出を
忘れないでね お兄さん
「仲良くみんなで伸びよう」と
あなたの残した このきまり
きっと守って育てます
おめでとう
おめでとう お兄さん

楽しく過ぎた思い出を
忘れないでね お姉さん
「手をとりあって考えた」
あなたの足あと ふみしめて
明るい学校を築きます
おめでとう
おめでとう お姉さん

卒業の日よ おめでとう

旅立ちの日に

白い光の中に 山なみは萌えて
遙かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼にこめて希望の風にのり
このひろい大空に夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる
意味もないいさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ
みんなすぎたけれど 思い出強く抱いて
勇気を翼にこめて希望の風にのり
このひろい大空に夢をたくして
いま、別れのとき
飛び立とう未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい このひろい大空に